

カレッジ里山 花実の森 活動報告(2015年7月-1) 第57号

活動日 2015年7月4日(土)	時間 9:30~12:00	天候 (曇り)	記録者 (菅田)			
公募参加者 14家族33名 スタッフ10名	<p>スタッフ 磯野彰夫 菅田忠志 黒子兵吾 塩ノ谷年子 松本治美 山田喜義 本部:小畠理事長 田路理事 古後前理事 (財)こうべ市民福祉振興協会 小脇様</p>					
今回実施した 内容	<p>親子カブトムシ生育観察会(第3回 成虫観察)</p> <p>親子自然体験型環境学習として企画し、(財)こうべ市民福祉振興協会の共催を得て公募した『親子カブトムシ生育観察会』、年間を通して里山に棲むカブトムシの生育観察をしながら、里山を知り体験するイベント。今回は3回シリーズの3回目。成虫観察を行なった。</p>					
写真記録	 					
<p>最終回には全家族が参加、初回に持ち帰った幼虫の生育具合を聞きながらスタート。『まだサナギやで』『見えないからわからない』『成虫になって出て来る』といろいろな返事。屋内と屋外で成長の差があるのかもしれない。</p>						
 						
<p>今回も生育場所での確認。ここのかぶとムシはまだサナギ状態だったが、蛹室内のサナギもかなり成虫に向けての形が整ってきている模様。</p>						
  						
<p>なかなかこの段階で見る機会も少ないと、教材として1匹を掘り出して観察。しっかり角もできてきている。観察後はそっと蛹室代わりの紙コップに収納し埋め戻す。</p>						



同じしあわせの村で生まれたカブトムシの幼虫を、西区の環境未来館でも育てていたが、屋内だったためかここより早く羽化しているため、こちらに2ケースを持ち込み成虫観察。とたんに子どもたちの熱い視線にカブトムシ達も大興奮。何故か今年もしあわせの村のカブトムシは 7:3 くらいでオスが多い。



手のひらに乗せたり、観察ケースに入れてじっくり観察したり。「カブトムシ以外の虫たちもケースに入れてしっかり観察するんやで…」



上から覗くと背中が見え、横の穴から覗くとお腹の面が鏡で反射して観察できるケースにいれてじっくり観察。



さあ並んで。おみやげのカブトムシにわくわくのこどもたち。



家で羽化したカブトムシにメスがいたらしっかり育てて卵を産ますんやで。



今回は、ここしあわせの村に広がる地層“神戸層群”から、今迄に見つかった木の葉の化石も観察。



顕微鏡でいろいろなものも観察してみた。木の葉の産毛まではつきりと。

◎ふりかえりシートに書き残してくれた子どもたちの感想

- ・はじめて自然の中すんでいるカブトムシを見つけてうれしかったです。幼虫もらえてうれしかった。
- ・思っていたより幼虫が大きいのにびっくりしました。木の穴の中に幼虫がいたのが面白かったです。
- ・土の中にぽっかり穴があいてその中にさなぎがいたことにびっくりしました。
- ・カブトムシを手にのせてもらってうれしかった。
- ・自分たちでカブトムシの産卵場所のためのチップを運んだことや、のこぎりで木を切ったことがはじめてだったが楽しかった。
- ・家で羽化したのがオスだったので、メスがもらえてよかったです。
- ・新しく知ったことはメスの方が小さかったことです。家で羽化した成虫は3匹ともオスで元気です。
- ・家の幼虫も早く成虫になってほしいけれど、今はまだなにも変化はおこらない。
- ・カブトムシがだいすきになりました。
- ・木の葉のかんさつはいいぼうけんだった。いろいろな形の葉やにおいの葉を見つけた。
- ・少し森がこわかったけれど、空気は気持ちよかったです。おもしろい葉をたくさんあつめられたのでたのしかったです。

(母親から)

- ・虫が苦手な娘も幼虫を触っていてびっくりしました。ノコギリ体験もさせてください有難かったです。
- ・ササユリの話を聞いてササユリの花が見たくなつた。